ＬＣＩＣ現地視察研修に係る報告書

教育学部　教育学科
准教授　戸井　一宏

１．視察日時
　令和７年３月２４日（月）１１：００～１７：００

２．視察目的
　「保護者目線から見たＬＣＩＣ」
　学生が留学に行きたいという意向をもっても、経済面や留学先の諸条件について、保護者が納得、安心できないと許可は下りないだろう。そこで、本視察では親としての目線で、ＬＣＩＣが保護者の納得を得られる学校かという観点で視察を行った。

３．視察内容報告
　① 安全対策
　フィリピンは、２０１６年６月にドゥテルテ大統領（当時）が就任し、ミンダナオ和平推進、治安強化、違法薬物の撲滅及び汚職対策を重要政策として掲げ、政治情勢は安定したという。外務省による渡航危険情報では南部のミンダナオ地方の一部に「レベル２：不要不急の渡航は止めてください。」や「レベル３：渡航は止めてください。（渡航中止勧告）」が出されているが、そのほかの地域は「レベル１：十分注意してください」である。（外務省ホームページより　２０２４年３月現在）。
　ＬＣＩＣのあるセブ島はマニラなど他のフィリピンの都市に比べて安全であると言われている。セブの中心街があるセブ島と橋で結ばれているマクタン島にＬＣＩＣがある。実際にＬＣＩＣ周辺を散策したところ、バイクタクシーの運転手による声掛けはあるものの、他の東南アジア諸国に比べそれはしつこくはなく、私自身は怖さを感じることはなかった。ＬＣＩＣの日本人女子学生がバイクタクシーの運転手と英語を使って堂々と値段交渉をし、希望の金額でショッピングモールまでの契約を勝ち取っている姿を偶然目の当たりにした。ここで生活するとたくましくなるものだと感心した。ＬＣＩＣ周辺には地元の方が生活している住居、市場などローカル感を十分に感じることができるフィリピン人の日常のリアルがそこにはあった。
　さて、そんな外部とＬＣＩＣの間にはセキュリティー面でのいくつもの壁が存在する。

まずは物理的な壁、塀とフェンスでキャンパス内は部外者の侵入を許さない。

次に、ゲートではセキュリティガードが常駐し目を光らせる。フィリピンではセキュリティガードの職に就くには大学で専門に学んだ資格が必要であるとのことであり、有事対応にも期待が持てる。このセキュリティガードによる検問がＬＣＩＣの建物に入るまでに３か所ある。また、敷地内、校内、寮内に多くの防犯カメラが設置されており、安全へのこだわりは徹底している。

また、学生や職員はゲートを通過するためにＩＤカードを機械に通さないと入れない仕組みになっている。誰が何時に通過したか記録としても残るため、学生が校外へ外出した後、戻っているか確認することもできる。

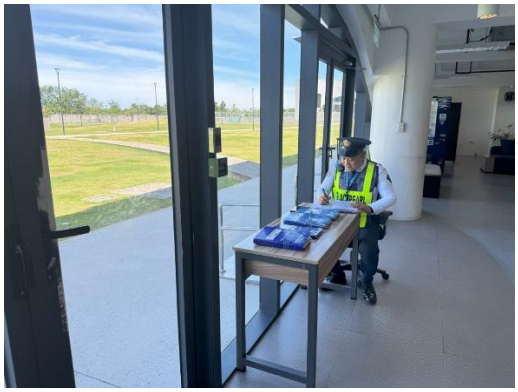
比較的治安のよいマクタン島とは言え、このように何重にも予防線が張ってある。子を預ける親の立場からすると、これほどの厳重な対策がされていることで、安心を得ることができるだろう。

ＬＣＩＣでの留学は全員寮に入ることになる。寮の安全保障も前述のとおり、セキュリティガードによる検問、ＩＤカードによる入退、防犯カメラがある。それに加え、男子棟と女子棟が分かれており、お互いに行き来できないようになっている。酒類の持ち込みは禁止され、また門限も午後１０時と決められており、安心、安全で規則正しい生活が送れるようになっている。

大学構内に入るためにはセキュリティガードの検問を通る必要がある。

何重もの警備で不審者の侵入を未然に防ぐ仕組みが徹底している。

IDカードによる認証システム



大学構内にある寮の入口にも検問

② 施設の清潔さ

海外留学では大学の寮に入ることがある。その際、寮の施設の清潔さ、快適さは、留学期間を実りあるものにするための大変重要な項目である。

まずは、お手洗い。武田理事長が海外の寮を視察され、日本人にとってトイレの快適性は重要であると痛感されたそうだ。毎日利用するトイレが日本人の日常使用レベルとかけ離れていると苦痛を伴うだろう。そこでＬＣＩＣを建設するにあたり、理事長はトイレの清潔さ、快適さにもこだわったという。

フィリピンでは電子管理された温水洗浄便座を見ることは難しい。この視察の中で私は見ることが無かった。東南アジアでは一般的ではないのだろう。トイレ内に電気工事を入れるのが技術的に難しいと聞いたことがある。

しかし、驚いたことにＬＣＩＣではそれが導入されている。便座の蓋は自動で開くし、ＴＯＴＯ社のウォシュレットが完備されている。男子用のトイレも自動で水が流れる。日本と同じ環境が整えられている。また、頻繁にクリーニングが入るためいつも綺麗に保たれており高級なホテルのようである。

次に、入浴施設。目玉は何といっても開放的な露天風呂。近くの国際空港で発着する機体を眺めながら南国での疲れを癒す時間となっていることだろう。お湯も毎日入れ替えるという。またサウナも設置されていた。毎日整うことができる。私が滞在中宿泊したホテルよりも数段上等な施設が整っており、贅沢すぎやしないか？とうらやましくも思えた。

そんな豪華な設備もある中、入浴施設では、様々なニーズに対応できるよう細やかな心配りがされていた。

浴槽に入りたくない学生にはシャワーブースがたくさんあるのは嬉しいであろう。シャワーブースもオープンなものから、個室になっているタイプまでたくさん配置されており、プライバシーに配慮されている。また男女問わず誰でも使用できるシャワールームも別の場所にある。ドライヤーも常設、ロッカーには鍵がかかるようにしてある。ここまで配慮できるのは日本人が手掛けた施設だからであろう。

建設にあたり、武田理事長は相当こだわったという。かゆいところに手が届く、そんな理想的な入浴施設である。

トイレの清潔さは留学先において重視したいポイントである。個室シャワー完備

鍵のかかるロッカー　　サウナ　　内風呂と露天風呂もある

③ 生活サポート施設

ＬＣＩＣには学生の立場に立った施設や工夫が多くあるが、その一部を紹介する。

各所にある自習スペース。寮の自身の部屋で課題などをするのも良し、部屋を出て自身の学習スタイルに合った場所で集中するのも良いだろう。留学の本分は学ぶことである。ここには「学ぶ雰囲気」が感じられる。

ウォーターサーバーが各所に設置されている。水も購入するとなれば経費もかさむが、ここではいつでも手軽に安心な水とお湯が手に入る。

調理機器、冷蔵庫、電子レンジやトースター、カップラーメンやスナック販売。

寮の食堂でおいしい料理は一日３食提供されるが（後述）、若者はお腹が減るのが早いのであろう。そんなときには各自がスーパーで購入したものを調理したり、

温めたり、また夜に小腹が減ったときにはお菓子やカップラーメンを購入したりして脳に栄養を与えることができ、学習が捗るであろう。

また、洗濯機も設置されており自身のタイミングで洗濯することができる。

自習スペース

各所に設置されているサーバー

各所に設置されている防犯カメラ

カップ麺やお菓子を買うことができる

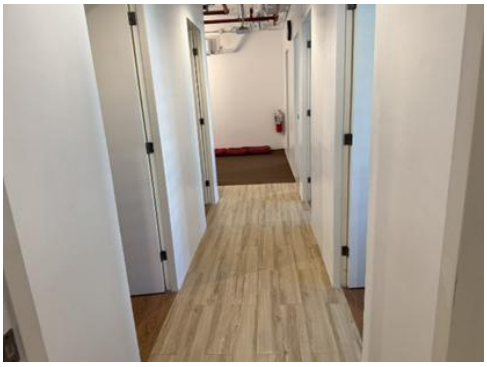
④ 寮の部屋。

日本人を含むフィリピン国外からの留学生には個室が割り当てられる。

個室には、ベッドと学習机、いす、エアコン、クローゼット、金庫が備えられている。ひとつのユニット（玄関あり、玄関に併設された共有スペースあり、冷蔵庫、電子レンジあり）には６つの個室と１つの４ベッドルームからなる。フィリピンの学生は４名で１つの４ベッドルームをシェアする。日本人を含む海外からの留学生が個室に閉じこもるのではなく、ユニット内の他国からの留学生やフィリピン学生と交流できるような仕掛けがされている。ＬＣＩＣでは、日本からだけではなく、台湾や韓国など諸外国からの留学生も受け入れており、寮の中でも英語で話す必然

性があることは語学学習には理想的な環境である。寮母さんもおり、困ったときには相談に乗って助けてくれる。

寮の部屋



１ユニットに最大１０名が暮らす

ユニット内に設置されている共有スペース

部屋ごとにセーフティ BOX も

⑤ 食堂で提供される食事

ＬＣＩＣでは、１日３食が提供される。厨房は日本人を含む留学生向けのと現地学生向けに分かれており、留学生向けの厨房からは４種類のメニューが提供され、学生は選択することができる。訪問時のランチは、

１．日本そば　２．唐揚げ丼　３．揚げ魚の甘酢和え　４．焼肉

が提供されていた。どれにも小鉢とみそ汁がついている。４の焼肉を試食したが日本で食べるものと全く変わらず大変美味しく頂いた。

美味しく安全な食事が保障されていることは、大きな安心材料となる。

日本そば

唐揚げ丼

揚げ魚の甘酢和え

焼肉

⑥　ＬＣＩＣで行われている授業

留学の一番の目的は授業を通して学ぶことである。

もちろんＬＣＩＣでのすべての授業は英語で行われている。

専門のトレーニングを受けた正規の教員３０名が、趣向を凝らした授業を行っていた。

まず、留学するにあたって気になることは学生自身の英語力であろう。英語で行われる授業について行くことができるのか不安を持つのは当然である。ＬＣＩＣでは入学に際して英語能力診断試験を行い、そのレベルごとにクラス分けを行っている。レベルに合った授業で自身の英語能力を伸ばすことができるだろう。

学生からの評判の良かった「Pilipino Travel」という科目の授業を行っているAthan 先生に、授業で心掛けていることをインタビューした。Athan 先生によると、学生の主体的な学びを重視し、自分の意見を英語で言えるよう積極的にグループワークやディスカッションを取り入れ、最終的には一人で調べたことや体験したことを台本無しでプレゼンテーションできるようにしている。日本人学生はあまり進んで話そうとしない人も多いため、しっかりと勇気づけた上で発表させている。教師がしゃべる時間は全体の３０％、７０％は学生がアウトプットするようにタイ

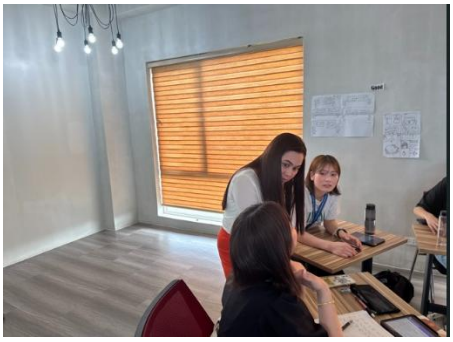
ムマネジメントを心がけている。とのことであった。実際に授業を拝見したが、フィールドワークに基づいたセブ市内の観光名所の紹介を、台本無しで堂々と紹介する日本人学生のプレゼンテーションを聞くことができた。

別の授業でも、グループワークが行われていた。３～４人の班で、たとえ班の全員が日本人であっても英語しか使えないという縛りがある。班内に台湾からの留学生がいるところは、英語を使う必然性があり、何とか伝えようと身振り手ぶりや絵を描くなどの方略を用い、課されたタスクにグループメンバーで協力して取り組む姿が見られた。

フィリピンではタガログ語と英語が公用語として定められている。セブでは小学校から英語の授業が行われているが、公立小学校の３年生から、私立小学校で１年生から、算数や理科、社会などの他教科も英語を使って授業が行われている。フィリピンでは一時アメリカ合衆国の植民地であったこともあり、アメリカ英語が話されており、フィリピン人同士でも英語で会話をしているほど浸透し、テレビやSNSなどでも英語使用があたりまえのように日常に溶け込んでいる。そのような環境の中で、英語を聞いたり話したりするこが得意ではないと感じる私たち日本人にとって、母語ではない英語を話すフィリピン人学生との英語を使ってのコミュニケーションは心的バリアも低いのではないかと感じる。フィリピンに来て、こちらがたどたどしくも何とか英語を使って伝えようとする姿勢を見て、分かろうと待ち、受けとめようとするフィリピン人に多く出会った。語学習得に心的バリアを下げることは有効であると言われている。間違った文法で話してしまったらどうしよう、発音が悪かったらどうしよう、相手の言っていることがわからなかったらどうしようなどという不安から生まれる心的障壁を打破できるフィリピンは、英語運用能力を伸ばすにあたっても適した環境だと考える。

グループディスカッション

授業はすべて英語で行われている



机間指導で個別に指導も

Athan 先生の授業の様子

放課後はバディシステムで希望する学生同士で英語で話したりゲームをしたり交流することができる。

【短期③】期間：2025年3月3日～3月28日　カリキュラム表（1週間分※）

※同じカリキュラム（時間割）を4週間繰り返します

（注）カリキュラムは変更になる場合があります。

	月	火	水	木	金
1コマ目 8:30-10:00（90分）	② Listening & Speaking 316	② Listening & Speaking	② Listening & Speaking	② Listening & Speaking	③ Pronunciation Skills ④ English for Careers ⑫ Japanese ⑬ Filipino
2コマ目 10:10- 11:40（90分）	③ Pronunciation Skills ④ English for Careers ⑫ Japanese ⑬ Filipino	⑥ Filipino Travel ⑨ TOEIC S & W ⑪ Mandarin (Chinese)	③ Pronunciation Skills ④ English for Careers ⑫ Japanese ⑬ Filipino	③ Pronunciation Skills ④ English for Careers ⑫ Japanese ⑬ Filipino	⑥ Filipino Travel ⑨ TOEIC S & W ⑪ Mandarin (Chinese)
昼食休憩 11:40-12:50					
3コマ目 12:50-14:20（90分）	⑤ Grammar Builder(A1-A2) ⑦ IELTS(B1-C2) ⑧ TOEIC R & L(B1-C2) ⑩ Korean ⑭ SDGs for EFL	① English Communication Skills 405	⑥ Filipino Travel ⑨ TOEIC S & W ⑪ Mandarin (Chinese)	① English Communication Skills	⑤ Grammar Builder(A1-A2) ⑦ IELTS(B1-C2) ⑧ TOEIC R & L(B1-C2) ⑩ Korean ⑭ SDGs for EFL
4コマ目 14:30-16:00（90分）	⑥ Filipino Travel ⑨ TOEIC S & W ⑪ Mandarin (Chinese) 201	⑤ Grammar Builder(A1-A2) ⑦ IELTS(B1-C2) ⑧ TOEIC R & L(B1-C2) ⑩ Korean ⑭ SDGs for EFL	① English Communication Skills	⑤ Grammar Builder(A1-A2) ⑦ IELTS(B1-C2) ⑧ TOEIC R & L(B1-C2) ⑩ Korean ⑭ SDGs for EFL	① English Communication Skills
5コマ目 16:10-17:00（50分）	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System
6コマ目 17:10-18:00（50分）	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System	⑮ One-on-One ⑯ Student Buddy System

<緑は英語科目、赤は言語科目、橙は一般教養科目、黒は個人レッスン>

※1　1科目につき週4回開講、4週間で16回開講されます。
※2　履修登録は「1科目」から最大「5科目」まで可能です。
※3　同じ時間帯に複数科目がある場合は、いずれか一つを選択することができます。
※4　オレンジ色は「選択必修科目」です。① or ② のいずれかを必ず履修してください(両方履修することも可能です)。
※5　選択必修科目以外は自由に履修してください。
※6　⑮One-on-Oneおよび⑯Student Buddy SystemはLCICから単位認定されません。それ以外の科目は成績に応じてLCICの単位が認定されます。

ある短期留学生の時間割。いくつかの授業の中から自分の学びたい授業を選択する。

最後に

留学中の広島文教大学学生に声をかけたら、第一声が「もっとここに居たい、帰りたくない」であった。この言葉がＬＣＩＣの魅力を端的にかつ率直に表していると思う。留学に送り出す保護者目線での視察、ハード面、ソフト面の両面から述べてきたが、実際に留学中の学生からの声ほど信頼が置けるものはない。

ＬＣＩＣは留学に子供を送り出す先として、十分保護者のニーズにも応えられる大学であると、今回の視察で確信した。

今回のＬＣＩＣ視察という機会を与えてくださった武田義輝理事長、施設を案内してくださったＬＣＩＣエグゼクティブアドバイザーの飯田泰司様及びＬＣＩＣの教職員の方々に心より御礼申し上げます。